

## 令和2年度「現代社会」シラバス

科目名	単位数	学年
現代社会	3単位	1年

### 1、学習の到達目標

人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

### 2、評価の観点及び評価方法

評価の観点			
a. 関心・意欲・態度	b. 思考・判断・表現	c. 資料活用の技能	d. 知識・理解
現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考えようとする態度と民主的・平和的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断し、その過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用して学び方を身に付ける。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。

#### ※ 総合評価

定期考査（知識・理解・表現・処理） 70%

課題・発表・授業態度（関心・意欲・表現） 30%

### 3 使用教科書

新現代社会

第一学習社

## 4 学習内容

学期	月	学 習 内 容
1	5 ～ 7	<p>第1部 私たちの生きる社会</p> <p>第1章 地球環境問題</p> <p>1. 環境と私たちの生活    2. 資源・エネルギー問題と私たちの生活    3. 科学技術の発達と私たちの生命</p> <p>4. 高度情報社会と私たちの生活</p> <p>第2部 現代の社会と人間</p> <p>1 青年期と自己の形成</p> <p>第1章 自分らしく生きる</p> <p>①青年期とは    ②青年期を充実させるために    ③自立に向けて    ④伝統や文化とのかかわり</p> <p>⑤社会とのかかわり    ⑥私たちの生きがい</p> <p>第2章 個人の尊重と法の支配</p> <p>①個人と国家    ②基本的人権と法の支配    ③世界の政治体制</p> <p>2 現代の民主政治と日本国憲法</p> <p>第1章 現代の民主政治と日本国憲法</p> <p>①日本国憲法の基本原理    ②平和主義と日本の安全保障    ③冷戦終結後の防衛問題</p> <p>④平等に生きる権利と自由に生きる権利    ⑤豊かに生きる権利    ⑥新しい人権    ⑦基本的人権と公共の福祉</p> <p>⑧国会の運営と権限    ⑨内閣と行政の民主化    ⑩裁判所と人権保障    ⑪法と私たちの生活</p>
2	9 ～ 12	<p>第2章 国際政治の動向と日本の役割</p> <p>①国家主権と国際法    ②国際連合の役割    ③第二次世界大戦後の国際社会    ④冷戦終結後の国際社会</p> <p>⑤核兵器の廃絶と国際平和    ⑥地域紛争と人種・民族問題    ⑦国境と領土問題</p> <p>⑧日本の役割と私たちの生き方</p> <p>3 現代の経済社会と国民生活</p> <p>第1章 現代の経済社会</p> <p>①経済と私たちの生活    ②経済体制の変容    ③現代の企業    ④市場のしくみ    ⑤経済成長と景気変動</p> <p>⑥財政のしくみと税金    ⑦金融機関のはたらき    ⑧戦後日本経済のあゆみ    ⑨日本経済の現状と展望</p> <p>⑩技術革新の進展と産業構造の変化    ⑪中小企業の現状と役割    ⑫食の安全とこれからの日本の農業</p> <p>⑬雇用と労働問題    ⑭労働環境の整備    ⑮公害の防止から環境保全へ    ⑯消費者問題と消費者主権</p> <p>⑰社会保障と福祉社会    ⑱これからの社会保障</p>
3	1 ～ 3	<p>第2章 国際経済の動向と日本の役割</p> <p>①国際分業と貿易    ②国際経済体制のあゆみ    ③国際収支と為替相場    ④国際経済の動向</p> <p>⑤進む地域的経済統合    ⑥発展途上国の経済と南北問題    ⑦国際社会のこれから</p> <p>第3章 民主社会に生きる倫理</p> <p>①豊かな人生を求めて    ②日本の伝統的な考え方    ③近代の西洋社会に見られる考え方</p> <p>④近代市民社会から大衆社会へ    ⑤他者とともに生きる    ⑥豊かな社会の実現に向けて</p> <p>第4章 ともに生きる社会をめざして</p> <p>ケーススタディ</p> <p>①社会保障と消費税    ②クジラは野生保護動物か、水産資源か    ③人口問題と私たちの未来</p>